

編集後記

本学部創設時の緊張感と使命感を平面上に叩き込むがごとく、錚々たる顔ぶれが執筆陣に並んだ、かつての学部機関誌『国際関係学部紀要』。その名誉ある後継者が必要であるとの認識のもとに、本誌『貿易風 一中部大学国際関係学部論集一』は刊行された。査読付きの学術論文からなる「論文」のほか、「研究ノート」、「資料」、「翻訳」、「書評」、「活動報告」など多様な形態の論考からなる意欲的なメディア。研究成果の社会への還元と教育成果の公開を柱に据えた「開かれたメディア」。非営利出版物の強みを活かし、外部公表の難しい本格研究を積極的に支援する国際関係学部のメディア…。その片鱗は、本誌創刊号の随所に窺い知ることができる。私は、旧紀要の編集委員を経て、2005年4月に本誌編集委員会の編集長に任じられた。この新しい学部機関誌を世に送り出す機会を与えられたことは、2004年4月に本学部に赴任したばかりの新人教員にとって身にあまる光栄である。この場をお借りして、創刊号にご寄稿いただいた先生方、ご協力いただいた皆様、そして本学部のすべての構成員の皆様に感謝の念を表したい。

この新しい学部機関誌が私たち編集委員会の力量を超えて、大きく羽ばたいていくことを期待する。過度な意気込みは禁物である。貿易風に身を任せておけば、期待は確信へと早暁変化を遂げるであろう。

(野崎孝弘)